

令和3年度第1回滋賀県総合教育会議の結果について

教育・文化スポーツ常任委員会資料1
令和3年(2021年)7月12日
教育委員会事務局教育総務課

日時：令和3年6月8日(火) 15:00~17:00

場所：県庁北新館5階5-A会議室

(一部出席者はオンライン会議システムを活用)

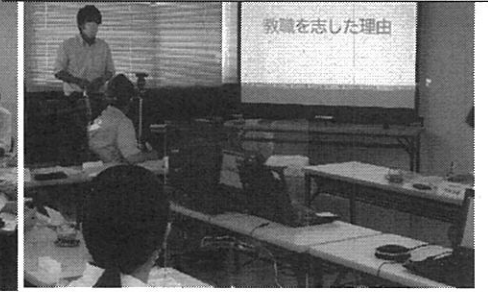
出席者：三日月知事、中條副知事、福永教育長

土井委員、岡崎委員、窪田委員、野村委員、石井委員

ゲスト：滋賀大学教職大学院 教授 大野 裕己

湖南市立下田小学校 教諭 大島 昂史

甲良町立甲良西小学校 教諭 松浦 遥



議題：教員の人材確保について

事務局から県の教員採用の現状について説明を行った。続いて、学識経験者から大学から見た教員の人材確保に関する現状と課題について、県内公立小学校の若手教員から自身が感じる滋賀の教職の魅力等についての説明・発表を受け、今後の教員の人材確保について、意見交換を行った。

(1) 教職の魅力化のための取組について

- ・若手教員や実習中の学生がうまくいかず悩んだ場合に、同僚や指導者からフォローアップを受けられる体制が必要。手厚いフォローアップがあることや、教員として伸ばしてもらえると感じてもらうことが、滋賀の教員を目指す者の確保にもつながる。(委員)
- ・小学校における教科担任制の導入や、相談や共に学びあうための教員の増員など、思い切って人員拡充に投資し、勤務時間内に教員同士の意見交換や、教材研究ができる環境を作るのが良いのではないかと。(委員)

(2) 教員志望者の確保に向けたアプローチについて

- ・倍率が高ければ優秀な人材を確保できるという考えから脱却しないといけない。(知事)
- ・採用倍率の低下が学校現場にどのように影響しているか分析があるとよいのではないかと。(委員)
- ・倍率を維持すれば教育の質を確保できるのか、内実が分かればよい。(委員)
- ・教員を志望する学生を後押しする存在として、教師塾は大事にしつつ、教師塾で拾いきれない学生が教員を目指すに当たって、どのように支援すればよいかを考える必要がある。(委員)
- ・人口の推移を見ても、これから大幅に志望者を増やすことは難しい。教員は小学校～高校の12年間、子どもに働く姿を見せているのだから、教員が魅力的な仕事であると表現することこそが人材確保になるのではないかと。(知事、委員)

～まとめ～

- ・滋賀の教師塾は、教員を志望する者に対して重要な役割を果たしており、今後一層の充実を図る。
- ・人材確保の観点からも、教員がより元気になる時間の創出を図るため、サポート人材の拡充などの環境づくりに努める。子どもにとっても、担任以外の教員と接する時間が、育ちや学びの機会になる。
- ・志望者や現職教員の属性、また離職理由等を分析し、データに基づき人材確保に向けた対策を検討する。
- ・採用試験のPR資料については、現場の教員の意見を聞きながら、滋賀で教員として働く魅力を伝えられる方向で改善を図る。
- ・子どもたちから見て教員になりたいと思える学校現場づくりに向け、教員へのフォローアップや、相談体制の充実のほか、教員養成大学との連携の強化や、学校現場のマネジメントの確保を図る。